

# 主催：日本写真学会・写真感光材料工業会 2023年度 PHOTONEXT技術アカデミー

後援：株式会社プロメディア

協力：(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会、(協)日本写真館協会  
(一社)日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会

日時：2023年6月6日(火) 10:00~17:00 (受付開始/9:30)

会場：パシフィコ横浜 展示ホール2F会議室 E24

定員：30人

参加費：全セッション通し/7,000円、セッションI/3,000円、セッションII/4,000円

参加登録：https://forms.gle/B39oEkdyYxtqKEMa7 (このフォームに記入、送信してください)

参加費支払方法：上記フォーム送信後「お支払いへ」ボタンからリンクする支払サイトでお申し込みします。

支払方法は、クレジットカード、ApplePayまたはGooglePayが利用できます。

申込締切：2023年6月2日(金)

※定員になり次第締め切らせて頂きます

## 講演プログラム セッションI「出力と表現技術」

10:00~10:45

### 「プロラボクリエイト」のプロ仕上げ銀写真プリントサービス

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社 クリエイト営業部 稲葉 誠之

高品質な仕上がりを求めるプロ写真家や写真愛好家の方々に、プロフェッショナルな写真サービスを提供するプロラボ。「プロラボクリエイト」は、長年培われた銀写真プリント方式を中心に、「作品」づくりを目的とした写真プリントや、写真展用の作品制作などのサービスを行っている富士フイルムグループのプロラボです。クリエイトが手がけるプロ仕上げプリントの高品質さや、画像を見るプロの視点からの作品づくり・作品発表にあたってのアドバイス、まだプロラボを利用したことのない方のためにプロラボを使いこなすノウハウのポイントなどについてご説明いたします。



10:55~11:40

### 個人でバーチャルプロダクションスタジオを導入

イメージバンクナカジマ株式会社 代表取締役・写心家 中嶋 秀磨

映像の世界で近年広まりつつある技術に、大型LEDディスプレイを利用した「バーチャルプロダクションスタジオ」があります。例えばロケーション撮影は現場へ行くことで成立します。これに対してバーチャルプロダクションスタジオでは、時間や空間の制限、天候や移動等の外的要因に左右されずに、スタジオの中に仮想空間を作り出して自由に撮影が可能になります。この度私は写真館として「バーチャルプロダクションスタジオ」を導入しました。次の未来な映像技術として「動く背景」あるいは「仮想空間」を演出できるスタジオを持った写真館のコンセプトを解説いたします。



11:50~12:35

### 鉄道写真の新世界へようこそ - 美しさを捉える技術とその表現力

鉄道写真家 煙道 伸麻呂

この講演会では、カメラの特性を活かした撮影方法や技術を紹介いたします。まず、近年賑わいをみせる多種多様なカメラ構造やレンズの種類、ピント合わせの方法、シャッタースピードやISO感度の設定など、実際の撮影現場に則した方法を解説します。次に、鉄道写真で特に重要な要素である、撮影スポットの選び方など、写真を交えて詳しく解説します。さらに、カメラの特性を活かした撮影についても、具体的な事例を挙げて説明します。たとえば、ドローンの撮影方法や、小型センサーを活かした撮影など、実際の写真とともに解説します。参加者は、カメラの設定や撮影方法について理解を深め、より魅力的な鉄道写真の撮影技術を身につけることができます。



## 講演プログラム

## セッションII「最新カメラシステムの技術動向」

13:30~14:15

### 高倍率超望遠ズームレンズ

### 「SIGMA 60-600mm F4.5-6.3 DG DN OS | Sports」の開発

株式会社シグマ 開発本部 開発第2部 第2課 佐藤 良祐

シグマは、高倍率超望遠ズームレンズ「SIGMA 60-600mm F4.5-6.3 DG DN OS | Sports」を2023年2月に発売しました。本製品は標準域の60mmから超望遠域の600mmまで広いズームレンジを持つ利便性の高いズームレンズでありながら、ズーム全域で高い光学性能を発揮します。また新開発のリニアモーター「HLA(High-response Linear Actuator)」による高速・高精度のAF性能や、新開発のアルゴリズム「OS2」によるワイド端7段、テレ端6段の強力な手振れ補正機構など、撮影チャンスを逃さず捉えるための機能が強化されています。本講演では「SIGMA 60-600mm F4.5-6.3 DG DN OS | Sports」の特徴や搭載技術について紹介します。



14:25~15:10

### キヤノンのディープラーニング画像処理技術

キヤノン株式会社 イメージコミュニケーション事業本部 統括第二開発センター 小笠原 努

我々は従来の画像処理手法とは異なる、ディープラーニング技術を用いた画像処理に取り組んでいます。キヤノンは、昨年にディープラーニング画像処理技術、今年4月にディープラーニングアップスケーリングを提供しています。本講演では、従来の画像処理の課題と、その課題に対するディープラーニング技術を用いた我々の取り組みについて紹介します。



15:20~16:05

### 薄型パンケーキレンズ「NIKKOR Z 26mm f/2.8」の開発

株式会社ニコン 光学本部 第二開発部 第二設計課 長岡 弘仁

ニコンは、NIKKOR Zレンズとしては最薄・最軽量のフルサイズ対応レンズ「NIKKOR Z 26mm f/2.8」を、2023年3月に発売しました。機能面では0.2mまでの近接撮影を可能とし、耐衝撃性や防塵・防滴性も一切妥協をせずに設計を行いました。外観デザインにもこだわり、幅広いシーンへの対応、毎日持ち歩きたくなるパートナーレンズに選んでいただけるよう高級感を意識して仕上げました。本講演では、こだわり抜いて設計した「NIKKOR Z 26mm f/2.8」について紹介をいたします。



16:15~17:00

### ミラーレス一眼がもたらしたもの

日本カメラ博物館 運営委員 市川 泰憲

2008年、かつて日本のカメラ産業を牽引してきた一眼レフとは全く異なる方式のレンズ交換式カメラが「ミラーレス一眼」の名でパナソニックからマイクロ4/3規格の「ルミックス-G1」として発売されました。年を重ねるごとに参入企業も増え、APS-C判、35mm判フルサイズ、中判というように撮像素子サイズの拡大と高画素化が図られてきましたが、今やプロ用的高级機からアマチュア用の普及機に至るまで、ミラーレス一眼が一眼レフカメラの市場を席巻するまでになりました。ここではルミックスG1から、最新のプロ用機までを使った1ユーザーとしての立場から、ミラーレス一眼がもたらしたものは何だったのだろうか、改めて考察してみます。



※ テーマ及び講師については、予告なく変更する場合がございます

【問合せ先】日本写真学会事務局 E-mail : info@spij.jp Tel : 03-3373-0724 Fax : 03-3299-5887

写真感光材料工業会 E-mail : kanzai.aoki@mbr.nifty.com Tel 03-6419-7241 Fax : 03-6419-7264